

4/6 (火) 北國

4/6 (火) 北國新聞

ウクライナ支援
 受付箱を設置
 白山・国際交流サロン
 白山市国際交流協会は、
 同市松任文化会館ビノの
 市国際交流サロンにウクラ
 イナへの支援金の受付箱を

設置した。5月末までに集
 まった善意を白山市の親善
 友好都市であるドイツ・ラ
 ウンハイム市へ送金し、同
 市から交流のあるウクライ
 ナ・ルブヌイ市への支援物
 資輸送などに役立ててもら
 う。

白山市によると、ラウン
 ハイム市は既にルブヌイ市
 へ生活物資や資金などを送
 っている。ルブヌイ市は人
 口約4万7千人でウクライ
 ナの首都キーウ(キエフ)
 に近く、工業と文化の中心
 地という。

4/7 (水) 北陸中日新聞

4/7 (水) 中日

白山市発 ウクライナへ善意

ロシアによる侵略に苦しむウ
 クライナ北東部のルブヌイ市を
 支援しようと、白山市国際交流
 サロン(同市古城町)と市役所
 に募金箱が設置されている。両
 市と交流があるドイツ・ラウン
 ハイム市が仲介役となり、6
 月、集まった善意をルブヌイ市
 に届ける。

白山市など3市は、ほかにフ
 ランス、イタリアなど5カ国の
 1市ずつが参加する計8市の交
 流の枠組み「都市間ネットワ
 ーク」に加盟。2017年に加わった
 白山市が、同ネットの枠組みに
 基づく国際交流をするのは初め
 て。

白山市によると、ルブヌイ市
 の人口は約4万7000人。ウクラ
 イナの首都キーウ(キエフ)か
 ら北西に約180キロに位置し、戦

縁あるルブヌイ市に

火から逃れた避難民が数多く身
 を寄せている。

ラウンハイム市は、明治の白
 山市桑島で植物化石を発見した
 ドイツ人地理学者ヨハネス・ユ
 ストウス・ライン博士(1835~
 1918年)の生まれ故郷。同市の
 トーマス・ユーヘ市長は3月10
 日、自ら大型トラックで同市を
 出発。陸路でルブヌイ市を訪
 れ、救援物資を届けたという。

白山市としてできる支援を考
 える中で、市交流室が事務局を
 担う市国際交流協会の事業とし
 て5月末まで募金箱を設置する
 ことにした。同交流室の楳本亜
 貴子室長(56)は「良いときも悪
 いときもつながっていることが
 大切。善意をお寄せいただけれ
 ば」と呼び掛けている。

(吉田拓海)

市役所などに募金箱



ウクライナのルブヌイ市を援助しようと白山市国際
 交流サロンなどに設置された募金箱。同市古城町で

4/26 (火) 北陸中日新聞

4/26(火)
中日

ウクライナ支援金186万円

白山市国際交流協が送る

ロシアによるウクライナと、両市と交流のあるドイツ・ラウンハイム市に、集まった支援金約百八十六万円を送った。協会の福田裕

山田憲昭市長等に支援の報告をする福田裕会長、白山市役所で



山田憲昭市長等に支援の報告をする福田裕会長、白山市役所で

・ユストウス・ライン博士が化石の見つかる白山市桑島の「桑島化石壁」の発見に貢献した縁から友好都市になった。ラウンハイム市が友好関係にあるルブナイ市に生活物資の輸送や資金援助をしており、協会の寄付も支援活動に使う。
福田会長は山田市長に、協会やライン博士の功績を語り継ぐ「ライン博士顕彰会」、市内企業などから集まった支援金を二十日に送ったと伝えた。市民から集まった寄付も送る予定。
協会は市国際交流サロン（白山市古城町）と市役所に募金箱を設置して支援を呼び掛けている。福田会長は「いろんな人たちで心を合わせて、何か力になれれば」と話した。
(青山尚樹)

4/8 (金) 北國新聞

4/8(金) 北國

外国人住民に着付け支援
白山市国際交流協会
中国出身・牛さん 着物で入学式



日本文化サポーターから着物を着付けしてもらった牛さん(中央)＝白山市国際交流サロン

白山市国際交流協会は7日、子どもの入学式に着物での出席を希望する同市宮永町の牛小嬢さん(40)＝中国出身＝の着付けを手伝った。日本文化サポーターの2人の手ほどきで牛さんは約30分で和装姿となった。次男の牛可貞君(6)を連れて旭丘小の入学式に出席した牛さんは「念願の着物を着られて良かった。すごくきれいで感動した。もっと日本文化に親しみたい」と話した。牛さんは長男陳含章君(9)の入学式の際、周りの保護者が着物を着ていたことから着物に憧れ、同協会に相談した。協会は2011年から、希望する外国人住民に無償で着物を貸し出して着付けをしている。着付けを終えた牛さんは夫の陳雷さん(40)と可貞君の入学式に参加し、わが子の晴れ姿に目を細めた。

4/8 (金) 北陸中日新聞

4/8(金)



次男の入学式に合わせて着物の着付けをしてもらう牛小嬢さん(中央)＝白山市宮永町で

中国出身の牛さん

4/8 (金) 北國新聞

《 日々ひと言 》

日本らしい姿で入学式を体験できてうれしい

白山市国際交流協会のサポートで、着物姿で次男の小学校の入学式に出席した中国出身の牛小嬢さん＝15面

2022.4.8

子の晴れ姿 夢の着物で

白山市国際協が着付け協力

白山市国際交流協会は7日、中国出身の牛小嬢さん(40)＝同市宮永町＝が次男の旭丘小学校の入学式に着物で出席するのに着付けなどを協力した。牛さんは約十年前から市内で暮らしている。三年前、長男の入学式で多くの母親がきれいな着物で出席していたのを見て、自分も着物で出席したかと思ったという。次男の入学式を前に、協会に相談。協会は市民の寄付の着物や草履を貸し出し、希望に応えた。牛さんは「日本らしい姿で入学式を体験できてうれしい。協力してくれた皆さんに感謝している」と話した。(青山尚樹)

5/17 (火) 北國新聞

5/20 (金) 北陸中日新聞

5/17(火)
 食の魅力伝える
 小説など140冊並ぶ
 白山・松任図書館
 白山市松任図書館の「食
 の魅力の本展」は、同館で
 始まり、食をテーマにした
 小説やレシピ本など140
 冊が並んだ。
 来月の「食育月間」に先
 立ち開かれた。市国際交流
 室の取り組みを紹介する展
 示「展示&読書で国際交流
 !」も行われており、同市
 の親善友好都市である海外
 5都市からのメッセージを
 紹介したポスターの掲示
 や、各国で人気の本などを
 並べたコーナーが来館者の
 注目を集めた。
 「食の魅力の本展」は6
 月26日までで、「展示&読
 書で国際交流!」は6月12
 日まで。

友好都市 読書で交流
 松任図書館で企画展示



展示と読書で国際交流してもらおう
 と企画された展示=白山市古城町で

コロナ禍で海外訪問が難
 しい中、企画展示「展示&
 読書で国際交流」が、白山
 市松任図書館で開かれてい
 る。米国など五カ国にある
 市の友好都市の紹介や市へ
 のメッセージ、関連本約百
 二十冊を展示している。六
 月十二日まで。
 友好都市は米国・コロン

ビア市、英国・ボストン
 町、ドイツ・ラウンハイム
 市、中国・溧陽市、寧州・
 ペンリス市。同図書館と白
 山市国際交流室が国際交流
 を疑似体験してもらおうと
 企画。
 各都市の紹介に加え、各
 都市の国際交流担当職員ら
 に好きな本や思い出の本、
 知っている日本人作家など
 を尋ねたアンケート結果も
 紹介。ボストン町では、井
 川龍之介や谷崎潤一郎、江
 戸川乱歩ら日本人作家十
 人の本を読んだことがあ
 ると回答した高校生もい
 った。
 メッセージでは「白山市
 のみなさんが読書によって
 世界を探検し続けることが
 できますように」「交流が
 一日も早く再開することを
 願っております」などと記
 されていた。アンケートの
 回答にあった人気の本、例
 えは中国では三国志や西遊
 記も並べてある。
 四月から十八歳に引き下
 げられた成人年齢と消費者
 トリップに焦点を当てた消
 費者センターの展示も、今
 月二十六日まで行われてい
 る。
 (飯田克志)

中日 5/20(金)

5/14 (土) 北國新聞

北國 5/14(土)

日本語サポーター
企業に出向き指導

白山市国際交流協

白山市国際交流協会は13日、市松任文化会館ヒノで理事会を開き、今年度事業計画では、日本語サポーターを各企業に派遣して外国人住民に日本語を指導する「企業出張型日本語学習支援」（仮称）を始めることを決めた。

従来は市国際交流サロンで指導していたが、広い白山では参加しにくいとの声があり、サポーターが出向くことにした。

国際若者フォーラムを9月24日に初めて開催し、青少年ホームステイ交流事業の参加経験者が、市内の学生や生徒に体験を語る。福

田裕会長と山田憲昭市長があいさつした。

5/27 (金) 北國新聞

北國 5/27

ウクライナ支援
15万円超を寄託

白山・鶴来学園

白山市で幼稚園、保育園

4施設を運営する鶴来学園は26日、ロシアの侵攻を受けるウクライナの支援へ、園児の家族らから集めた募金15万2457円を市国際交流協会に寄託した。

鶴来第一幼稚園の大角智恵美園長と同園で英語講師を務めるヴァグネル・ズビグニェフさんが市役所を訪れ、市国際交流員のエヴァン・ロステッターさんに募金箱を手渡した。4月1日から4月30日まで4園の玄関に募金箱を設置した。善意は、協会が設置して

いる募金箱と合わせて6月に、白山市の親善友好都市であるドイツ・ラウンハイム市へ送金し、同市から交流のあるウクライナ・ルブヌイ市への支援物資輸送などに役立ててもらおう。

5/30 (月) 北陸中日新聞

5/30(月) 中日

台湾ちまきで味な交流

白山で教室、旧暦の節句料理

台湾の旧暦の端午の節句「を作る料理教室が二十九(今年六月三日)のお祝日、白山市倉光の市福祉ふれあいセンターであった。



笹皮(手前)で具材を包みおこわを作る参加者ら。白山市倉光で(北陸台商連誼会提供)

参加者十人が食を通じた日台交流を楽しんだ。

料理教室は、北陸三県(石川、富山、福井)で事業を営む台湾人団体「北陸台商連誼会」が主催。台湾のちまきには、干しエビや豚肉、シイタケ、落花生などが入り、もち米を用いたもちもち中華おこわが、笹皮にくるまれている。

料理教室では、台湾南部出身で約三十年前に来日して金沢市福久町でちまき店「台湾姜家肉粽」を営む姜淑枝さん(モモ)が、幼い頃から慣れ親しんだ故郷の「母の味」を披露。参加者は、姜さんが用意したご飯や具材を笹皮に包んだ。

台湾出身の歌手で、団体メンバーの寒雲さん(ハセ)「白山市美川中町」は「政府の仲が悪くなったとしても、地元の人同士が仲良くしていることが大切。そのため、食などの互いの文化の違いを知って、物事をいろんな角度から見られるようになれば」と話していた。(吉田拓海)

7/4(月) 北陸中日新聞

7/4 (月) 北陸中日新聞

世界の味 みんなで作る

白山市国際交流協会 初回は米国料理



米国の料理を教えるライアン・ウィセンシオさん(左)、アン・インベル・タンさん(左から3人目) = 白山市倉光で

白山市国際交流協会は三日、国際交流を楽しみながら世界の料理を作って味わう、「気軽に作れる世界の料理教室」を始めた。初回はアメリカ編と題して、秋の定番料理「チキン・ポット・パイ」や「アップル・サイダー」を市福祉ふれあいセンター(同市倉光)で作った。年に一回ほど開く。

食を通じて気軽に国際交流を楽しんでもらおうと企画。同協会が主催する国際交流サロン(同市古城町)の日本語教室で学んだ、いづれも米国籍のアン・イェル・タンさん(ミモ)と、ライアン・ウィセンシオさん(ミモ)が、巧みな日本語を織り交ぜてレシピを伝授した。

参加者の親子ら二十二人は、クリームシチューがサクサクとしたパイ生地にも包まれたチキン・ポット・パイ

6/19 (日) 北國新聞

北國 6/19(日)

◆日本語サポーター養成

白山市国際交流協会の日本語サポーター養成講座は18日、市国際交流サロンで開かれ、県内の11人が、外国人の日常生活を簡単な日本語を交えて支援する「日本語サポーター」の役割を学んだ。北陸国際交流センター准教授の横田隆志さんが講演した。9月10日まで全12回の講座を開く。

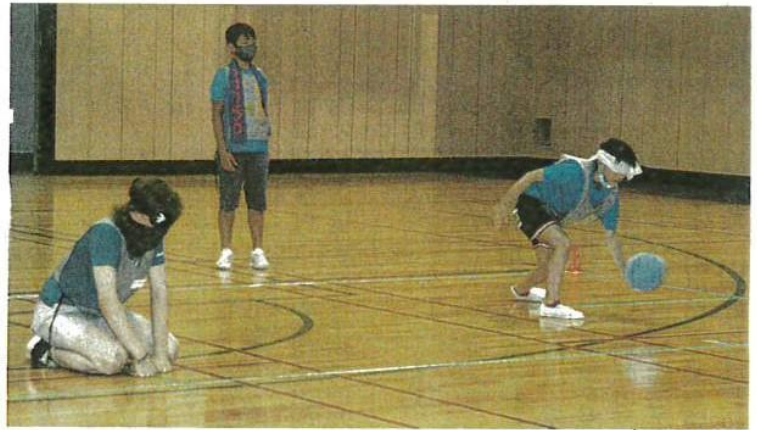
7/23 (土) 北陸中日新聞

7/23 中日

交流久しぶり 白山滞在楽しむ 姉妹都市・英ボストン町の高校生ら

白山市に、姉妹都市の英
国・ボストン町の高校生六
人が引率の教師二人とともに
訪れている。コロナ禍の
影響で三年ぶりの交流。高
校生らは二十八日まで市内
に滞在。日本の伝統文化体
験や日本の小中学生らと交
流し、一九九四年の旧美川
町時代から続く親交を深め
ている。

二十日に来日したボスト



白山市の高校生は、昨年からの訪問に備え、オンラインで白山市の子どもらと連絡を取り合ってきた。

二十一日には「美川スラムスポーツ少年団」の小中学生十六人と市美川スポーツセンターで、目隠しをして鈴の入ったボールを投げ合う「ゴールボール」を楽しんでいる。

(青山尚樹)

目隠しをしてゴールボールを楽しむボストン町の高校生と子どもら。白山市美川浜町で

しんだ。美川中二年の石川藍斗さん(こは)は「ゴールを決めたらチイスと声をかけてくれてうれしかった。国とか関係なく一緒に遊べてよかった」と笑顔。

高校生たちは二十一日、市役所を訪問。山田憲昭市長は「お会いできてうれし
い。日本の夏は蒸し暑いので健康に注意してほしい」と歓迎した。

高校生たちは納豆を食べたことや、市の伝統工芸ヒノキ細工でコースター作りを体験したことなどを報告。ミシエラ・パーシニアさん(もは)は取材に「文化をいろいろと知れた。日本の食べ物をいろいろ食べた」と話した。

ボストン町と旧美川町は一九九四年から一年ごとに子どもたちの相互訪問を実施し、白山市も受け継いで

7/23 (土) 北國新聞

7/23
北國



◇…白山市の姉妹都市・英ボストン町の高校生6人が22日、市役所を訪れ、山田憲昭市長に日本での交流に意欲を語った写真。

◇…新型コロナの影響で白山市の受け入れは3年ぶり。高校生は20、28日の9日間滞在し、茶道や和太鼓、自然などに触れる。

◇…食べ物の話題になり納豆食べた。好物ではないけどと高校生が話すと、みんな笑顔になり、さっそく打ち解けた雰囲気。



7/24 (日) 北陸中日新聞

7/24 中日

やさしい日本語 落語で

白山市が外国人向け催し



外国人に伝わりやすい、簡単な表現を用いた「やさしい日本語」を知ってもらおうと、白山市は二十三日、県内で初めて「やさしい日本語落語」の催しを、同市松任文化会館ヒノで開催した。落語家桂かい枝さんが、やさしい日本語を駆使した小ばなしや落語を披露し、会場を大いに沸かせた。市で暮らす外国人四人による、日本語スピーチ大会もあった。

やさしい日本語とは、日本語が不慣れた外国人に、伝わりやすく工夫した日本語。一文を短くし、文の構造を簡単にし、難しい単語は避け、擬音語は使わない、などのルールがある。

かい枝さんは、トコを演じる羽目になった男の意外な末路が意表を突く落語「動物園」などを披露。外国人になじみがない難しい言葉を簡単な表現に言い換え、敬語も省略し、巧みな語りで笑いを誘った。

その後、やさしい日本語落語の体験では、市国際交流員の米国人エヴァン・ローステッターさんが小ばなしに挑戦し、観客から拍手が送られた。

ニューシールド出身の男性客(左)は「ずっと落語を見たかったけど、難しいと思って避けていた。分かりやすく話してくれたと、とても面白かった」と、喜んでいました。(吉田拓海)

やさしい日本語落語を体験するエヴァンさんと桂かい枝さん＝白山市古城町で

7/27 (水) 北國新聞

7/27 北國

和太鼓を体験する参加者

白山市福留町



ボストン町の高校生 和太鼓体験 白山市

白山市の姉妹都市・英ボストン町の高校生ら8人は26日、同市福留町の浅野太鼓楽器店を訪れ、和太鼓体験などを通じて日本の伝統文化に親しんだ。

地元の和太鼓チーム「サスケ」11人による演奏も行われ、「山月」や「信」で、うちわ太鼓や長胴太鼓、桶胴太鼓、大平太鼓の力強いばちさばきを披露した。和太鼓体験では、参加者が足の開き方やリズムの取り方、ばちの持ち方など和太鼓の基礎を学んだ。

8/22 (月) 北國新聞

北國 8/22

◆日本の出産に理解
 白山市国際交流協会の「保健師さんのお話会」は21日、同市松任文化会館ピーノで開かれ、0〜4歳児を育てる外国人の保護者6組が、日本の出産や育児に関する制度に理解を深めた。

保健師の古木雅世さんが講師を務めた。「病院で医療従事者の話す日本語のスピードが速すぎて聞き取れない」との参加者の相談に対し、通院時に言語サポートの派遣が可能であることが伝えられた。

8/30 (火) 北陸中日新聞

中日 8/30(火)

新聞 中日

(第3種郵便物認可)

白山と活発交流 これからも

友好都市独のラ市議長ら来市



白山市と友好都市を締結して二十五周年を迎えるドイツ・ラウンハイム市のターフィット・レンデル市議長(三)らが二十九日、白山市を訪れた。一行は現在のラウンハイム市に生まれ、白山市桑島で日本初の植物化石を発見したドイツ人地理学者、ヨハネス・ユストウス・ライン博士(二八五三―一九八一年)の功績を顕彰する三十日の「ライン祭」に出席する。

(吉田拓海)

きょうライン祭出席

一行はレンデル議長のほか、国際友好協会会員で郷土史研究家のベルント・ウァイルさん(五)と、ラウンハイム市に二十年近く在住する伊藤公子さん(五)と鳥取県出身の三人。山田憲昭市長らと懇談した。

山田市長は「心より歓迎する」とあいさつ。レンデル議長は「活発な友好関係は卓越した成果だ」と応じた。白山市からは、同市白峰特産の絹のつむぎ織り「牛首紬」の名刺入れや、美川刺しゅうの額を進呈。ラウンハイム市からは今年の干支の寅に合わせ、ドイツ製のトラのぬいぐるみや、ワイシャツなどの袖口を留める小物で市章があらわられたカフリンクスが贈られた。

ラウンハイム市は、フランクフルト空港に近いマイン川南岸に位置し、人口は約二万六千人。

通訳を介して談笑する(右から)山田憲昭市長、ターフィット・レンデル市議長とベルント・ウァイルさん(左)白山市役所で

8/30 (火) 北國新聞

友好都市末永い交流誓う

独ラウンハイム市と25周年

白山市の友好都市であるドイツ・ラウンハイム市との提携25周年記念式典が29日、白山市のグランドホテル白山で行われ、両市の関係者約30人が末永い交流を誓った。

山田憲昭市長が「これからも友好関係を続けたい」と誓った。ラウンハイム市のターフィット・レンデル市議会議長が白山市からラウンハイム市にウクライナ向けの支援金が寄せられたことに触れ、感謝する避難者の署名を披露した。

友好発展に功績のあったトーマス・ユーヘ市長と楠根重和ライン博士顕彰会顧問を表彰した。北嶋章光市議会議長が祝辞を述べた。訪問団は市役所や市内施設



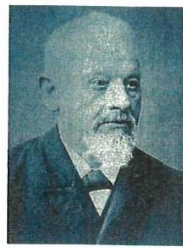
白山市とラウンハイム市の友好継続を誓う出席者
|| 白山市内のホテル

北国 8/30(火)

8/30 (火) 北國新聞夕刊

北 國 新 聞 (夕刊) 新聞定価 朝夕刊月ざめ 本体価格 4,074 円 (税込み 4,400 円) 夕刊1部売り (税込み) 50 円 第3種郵便物認可

ライン博士の縁 日独友好末永く



白山・桑島化石壁 世界に紹介

明治期に白山市の桑島化石壁を世界に紹介したドイツの地質学者ヨハネス・ユストゥス・ライン博士の遺徳をしのぶ第40回ライン祭は30日、同市桑島の顕彰碑前で営まれた。博士の出身地ラウンハイム市のターフィット・レンデル市議会議長や地元住民ら約90人が参列し、日本の地質学発展に貢献し両市友好の懸け橋となった博士の業績を振り返り、顕彰の永続と交流発展を誓い合った。



遺徳しのぶ顕彰祭

ライン祭は1983(昭) 40回目を迎えている。昨年はコロナ禍の影響で白峰コミュニティホールに会場を移したが、今年が定例で以降、毎年開く。今年は再び顕彰碑前に会場を

10年ぶり ラウンハイム市から訪問団

今年度は白山市とラウンハイム市の友好都市提携25周年の節目で、29日記念式典に出席した訪問団が参列した。ラウンハイム市関係者がライン祭に出席するのは10年ぶり。式では、レンデル市議が記念スピーチし、ライン博士顕彰会の多年の活動について「25年わたる両市の友情につながっていることは素晴らしい。関係継続は私たちの義務であり喜びだと述べた。顕彰会の山下重信会長が式辞、山田憲昭市長、北嶋章光市議会議長が祝辞を述べた。出席者が顕彰碑前に花を供えた。式典後には同市桑島の真宗大谷派東林寺で、顕彰会顧問を務める楠根重和と金天名智恵教授が記念講演を行った。白山恐竜パーク白峰では、地元の白樺中生が化石発掘調査を体験し、ライン博士による桑島化石壁の調査に思いを寄せた。

ライン博士の顕彰碑に花を供えるレンデル市議
|| 30日午前10時20分、白山市桑島

ライン博士 1865-1961
88年プロイセン帝国現在のドイツで植物学博士。1893(明治6)年12月29日9月米岡の命で日本国内の調査を行った。74年に白山桑島の途中、桑島化石壁で植物化石を採集し、友人の寄った論文を著したことが、日本の地質学発展につながったとされる。帰国後はマルプスの初代地理学教授を務め、日本の専門家としても活躍した。

8/31 (水) 北國新聞

8/31(水) 北 國 新 報

第3種郵便物認可

石を割って化石を探す生徒＝白山恐竜パーク白峰



地元中学生が化石発掘体験



ライン博士の顕彰碑前でスピーチをするレンデル議長 ー白山市桑島

白峰で40回目の「祭」

ライン博士に思いはせ

明治時代に白山市の桑島化石壁を世界に紹介したドイツの学者、ヨハネス・ユストゥス・ライン博士の遺徳をしのぶ第40回ライン祭は30日、同市桑島の顕彰碑前で行われ、地元有志らでつくる顕彰会のメンバーや同市白嶺中の生徒ら約90人が博士の業績を振り返った。生徒らは白山恐竜パーク白峰で、石を割って化石を探す発掘調査を体験し、約150年前のライン博士の仕事に思いを寄せた。

発掘調査を体験したのは1、2年生16人で、市白嶺化石調査センターの化石調査員が指導に当たった。生徒らは桑島化石壁の内側を貫いて2000年に開通した「ライントンネル」の工事中に出た石をハンマーで割り、化石を探した。割れた石から一枚員やシタ植物が出てくると、歓声を上げて見せた。貝の化石を2個見つけた2年生の南袖希さん13は「ライン博士の南袖希さん13は「ライン博士の顕彰碑前でスピーチをするレンデル議長」

博士も「うっ作業をしていたんだと思う」と、親近感が湧いてきた」と笑顔を見せた。
博士の故郷から10年ぶりの出席

ライン祭には、博士の故郷ラウンハイム市からターフィット・レンデル市議会議長らが出席した。同市からの出席は10年ぶり。白山市とラウンハイム市の友好都市提携25周年の節目に当たり、29日の記念式典に出席するため、レンデル議長らが白山市を訪れていた。ライン祭は1983(昭和58)年に地元住民らでつくるライン博士顕彰会が発足して以降、毎年行われている。昨年はコロナのため会場を白峰コミュニティホールに移したが、今年は再び顕彰碑前に戻した。レンデル議長は記念スピーチで顕彰会の活動をたたえながら、「25年にわたる両市の友情につながっており、関係の継続はわたしたちの義務であり喜びだ」と述べた。顕彰会の山下恵信会長が式辞、山田憲昭市長、北嶋章光市議会議長が祝辞を述べた。出席者が顕彰碑前に献花した。同市桑島の真宗大谷派東林寺では、顕彰会顧問を務める楠根重和金大名教授が記念講演を行った。

8/31 (水) 北陸中日新聞

2022年(令和4年)8月31日(水曜日)

桑島で40回目の「ライン祭」



ライン博士顕彰碑の前で、「友情を継続させたい」とあいさつするダーフィット・レンデル市議会議員＝白山市桑島で

博士しのび節目祝う

日本初の化石を発見したドイツ人学者ヨハネス・ユストゥス・ライン博士（一八五三―一九一八年）を顕彰する四十回目の「ライン祭」が三十日、化石の発見場所に近い白山市桑島のライン博士顕彰碑前であった。化石の発見エリアを含む市内全域を対象にした自然公園「白山手取川ジオパーク」に関連し、来賓の山田憲昭市長は「秋には（世界ジオパークの）現地審査を迎える」と、認定手続きが進む見通しを示し、節目に花を添えた。

（吉田拓海）

ライン祭は、住民団体「ライン博士顕彰会」が主催し四十回目。同会は、手取川ダム建設による集団移住で、集落の活力低下を危惧した有志らが一九八三年、地域振興を目的に結成した。参加者は、ライン博士顕彰碑に向けて白菊を献花。桑島を日本の「地質学発祥の地」として知らしめた、博士の遺徳をしのいだ。

白山市長「ジオ 秋に現地審査」

今年と同市の前身の一つの旧白峰村が、ライン博士の故郷ドイツ・ラウンハイム市と親善友好都市になってから二十五周年の節目。ライン博士が結んだ友好関係をより堅固にしようと、ラウンハイム市のダーフィット・レンデル市議会議員（三）も出席し「約五十年前、博士の日本旅行が、両市の友好につながるとは、誰も想像しなかった。今後、両市民の友情を継続させたい」と喜んだ。

ライン博士が化石を発見した手取川右岸は、国史跡「桑島化石壁」として知られ、白山手取川ジオパークの目玉の一つ。

白山手取川ジオパークは国連教育科学文化機関（ユネスコ）が認定する国内十番目の世界ジオパークを目指しているが、コロナ禍の影響で昨年五月から八月に予定されていた現地審査が延期されていた。市などでつくる白山手取川ジオパーク推進協議会によると、十月にユネスコの審査員を受け入れられる見込み。

顕彰会の山下恵信会長（七〇）「同市桑島は「ジオパーク」が世界認定されれば、これ以上うれしいことはない。大変なことだったが、続けてよかった」と話した。

北國新聞 9/18(日)

9/18 (日) 北國新聞

◆外国人リーダーを養成
 白山市外国人コミュニティ
 リーダー養成講座は市松任文化
 会館ヒールで始まり、米国や中
 国、ベトナムなどから来日した
 住民8人が、外国人の生活支援
 をするため、市の制度を学んだ。
 市が開くのは初めてで、日本の
 生活や地域事情に詳しい外国人
 住民を育て、外国人が暮らし
 やすい社会をつくる。講座は12
 月まで全7回開く。

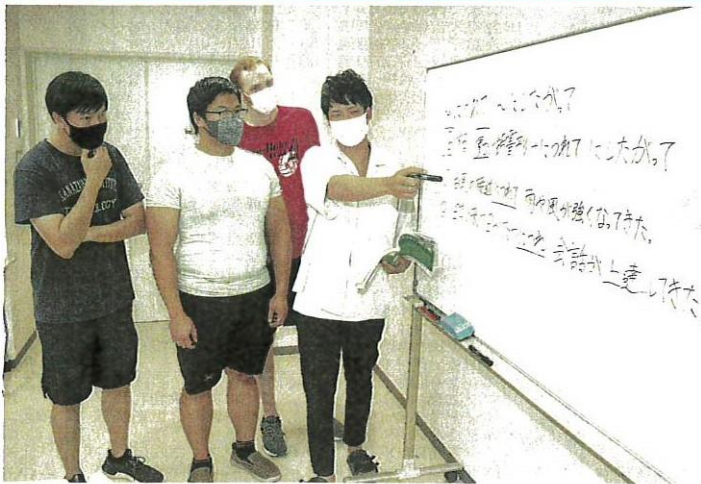
9/21 (水) 北國新聞夕刊

北國夕刊 9/21(水)

JAPAN TENT

ホストファミリーに4回

白山の松田さん 24日、国際交流の体験語る



視野広げ、成長の好機

「JAPAN TENT」世界留学生交流いしかわ（同開催委員会主催、北國新聞社特別協力）でホストファミリーを務めた白山市宮原町、会社員松田祥正さん24日、同市国際若者フォーラムで体験談を語る。留学生と接する中で、将来は青年海外協力隊として活動したいという夢を持つようになった松田さん。国際交流は視野を広げ、成長できるチャンスと呼び掛ける。

「夢は青年海外協力隊」

外国人に日本語を教える松田さん（右）
 白山市松任文化会館ヒール

帰国後も近況報告
 松田さんは、高校と社会人時代の2014、17、19年の4回、ジャパンテントのホストファミリーを務め、オランダやコロンビア、マダガスカルなどから来日した5人の留学生を、白山市の実家で家族と一緒に受け入れた。
 自宅で寝食を共にして会話する中で、「外国人と友達になり、知らない海外の生活を聞けることが一番の魅力」と感じた。留学生が母国に帰った現在も、SNS（交流サイト）で近況を伝え合うほか、誕生日を祝うメッセージなどをやり取りしている。
 ホストファミリーになるきっかけは、等間中時代に市の姉妹都市・英ホストン町にホ

こうした経歴から、市が24日に松任文化会館ヒールで初めて開くフォーラムのパネリストに選ばれた。フォーラムには、外国でホームステイした経験を持つ12人が体験を発表する。
 ホストファミリーになった経験から、青年海外協力隊員になる夢に向かって努力を続ける松田さん。国際交流活動を体験しなければ「夢がない人生だった」と振り返り、「来場者が興味を持つように自分の経験を紹介したい」と語った。

フォーラムへの出席は申し込みが必要。問い合わせは市国際交流室へ。

ームステイしたことだった。ロンドン五輪に沸く英国に10日間滞在して異国の文化に触れ、北隣高卒後はワーキングホリデーでカナダに1年間住み、英語の習得に励んだ。
 自身の体験から「外国で世話になった人のことは忘れないう。日本に良い印象を持ってもらいたい」との思いを強め、北國新聞文化センターで日本語教師の資格を取得。今は市国際交流サロンで週1回、市在住の外国人にボランティアで日本語を教えている。
 パネリストに選出

9/22 (木) 北陸中日新聞

中日 9/22(木)

「JAPAN TENT」世界留学生交流
いしかわ(同開催委員会主催、北國新聞社
特別協力)でのホストファミリーを契機に、
国際交流を続ける男性が白山市に在る。富原
町の会社員松田祥平さん(24)は、留学生と接
する中で世界が近くなり、視野が広がったと
実感を進める。現在はボランティアで日本語
教師を務め「将来は青年海外協力隊に」と夢
を描く。24日に市内で開催されるフォーラムで
体験談を披露する予定だ。

松田さんは高校生だった2014
年と、社会人になってからの17、19
年の計4回、ジャパンテントのホス
トファミリーを務め、市内の美家で
家族と一緒に留学生を受け入れた。
留学生はオランダやコロンビア、
マダガスカルなどの出身で、寝食を
共にする中で「今まで見聞きするこ
とがなかった世界に触れられる時間
が一番の魅力」と感じた。留学生が
母国に戻っても、SNS(交流サイ
ト)などで近況を伝え合うほか、誕
生日を祝つメッセージなどをやり取
りしているという。

辛間中時代に市の姉妹都市・英ホ
ストン町を訪れたことが国際交流に
興味を持つきっかけになったとい
つ松田さん。北陸高卒業後にはカナダ
に1年間住み、英語の習得に励んだ。
「外国でお世話になった人のこと
は忘れない。日本に良い印象を持
てもらいたい」と思い、北國新聞文
化センターで日本語教師の資格を取
得。市国際交流サロンで週1回、市在
住の外国人に日本語を教えている。

JAPAN TENT 白山・松田さん

ホスト機に世界が近く



外国人に日本語を指導する松田
さん(左)
=白山市松任文化会館ビノ

続く交流、視野広げ

こうした経歴から、市は24日に松
任文化会館ビノで初めて開く国際
若者フォーラムのパネリストに選ん
だ。フォーラムには、外国でホム
ステイした経験を持つ12人が体験を
発表する。

松田さんは「国際交流を体験しな
ければ夢がない人生だった。交流に
興味を持ってもらえるよう経験を紹
介したい」と話している。フォーラ
ムへの出席は申し込みが必要。問い
合わせは市国際交流室へ。

24日、フォーラムで体験談披露


9/25 (日) 北國新聞

北國 9/25(日)

留学経験者ら
国際交流語る
松任でフォーラム

白山市の「国際若者フォーラム」写真Ⅱは24日、同市松任文化会館ビーンで開かれ、来場者55人が海外留学や国際協力などの経験を語り、12人の発表に耳を傾けた。

パネル討論では、「JAPAN TENTー世界留学生交流いしかわ」(同開催委員会主催、北國新聞社特別協力)で計4回ホストファミリーを務めた白山市宮原町の松田祥平さんが「心を開く、差別をしない、受け入れる。これができるば誰でも国際交流はできる」と話した。



9/25(日) 中

9/25 (日) 北陸中日新聞

留学やホームステイ 中高生に魅力伝える

白山で国際若者フォーラム



参加者に向けて自身の経験を話す
高崎隼人さん=白山市古城町で

白山市の中高生に海外留学への関心を高めてもらう市国際若者フォーラムが、同市古城町の松任文化会館ビーンで開かれた。市から米国コンピリア市などの親善友好都市へホームステイに派遣された経験者が、海外の食文化やスポーツへの取り組み方の違いを説明した。

国内企業でインド駐在員を務めたことのあるホームステイ経験者の高崎隼人さんは、一時期ホームシックに陥ったことや、海外での生活を通して客観的に日本について深く知ることができたエピソードを紹介。「ホームステイは、人生の軸の原点」と魅力を伝えた。

参加した高校二年生の田村美結さん(こ)は「ホームステイや留学は大変な部分もあるが、将来を考えるきっかけになる。機会があれば参加したい」と話した。

白山市は旧松任市の頃から約三十年にわたって、親善友好都市と中高生のホームステイ派遣や、受け入れをしている。

(安里秀太郎)

10/5 (水) 北陸中日新聞

北陸中日 10/5 (水)

避難民から「ありがとう」

ロシアによるウクライナ侵攻を受けて、ウクライナ北東部ルブヌイ市への支援金を募った白山市と市国際交流協会に、ウクライナ避難民から感謝の寄せ書きが贈られた。同市古城町の市国際交流サロンで展示している。

白山市と協会が四月から支援金を募集。これまで市内の企業や個人から計約二百二十万円が寄せられた。白山、ルブヌイの両市と友好都市のドイツ・ラウンハイム市が協力している。

寄せ書きは、A3判でウクライナの国旗のイラストの中央に「THANK you」と記され、避難民のサインがびっしりと書かれている。八月末、友好都市締結二十五周年を記念して白山市を訪れたラウンハイム市のターフィット・レンデル市議会議長が持参した。

ウクライナへ支援金 白山市などに寄せ書き



ウクライナ避難民から贈られた感謝の寄せ書きと設置している募金箱＝白山市古城町で

ラウンハイム市では、八月末時点で約五百人のウクライナ人が避難。支援金はルブヌイ市への物資の輸送や、避難民の食料などの購入に充てられていると、協会は十月末まで、サロンと市役所に募金箱を設置し、支援を呼びかけている。

(青山尚樹)

10/17 (月) 北陸中日新聞

10/17 (月) 中日

熱戦を繰り広げる参加者ら＝白山市倉光で



白山市国際交流サロン（古城町）に通う外国人と、日本人の住民がペアになって試合をするバドミントン大会が、同市倉光の松任総合運動公園体育館であった。

バドミントンで国際交流 松任の体育館

外国人と日本人ペアに

サロンを運営する市国際交流協会が、スポーツを通じて、相互の価値観や文化について理解を深めてもらうと主催した。

同市や野々市市に住む技能実習生や主婦、中学生ら外国人二十人が参加した。それぞれの国籍はフィリピンやベトナム、米国などさまざまだった。日本人十二人も参加した。くじ引きで十六組のペアをつくり、八ペアずつの二グループに分かれ、それぞれ総当たり戦で試合をした。

企画などに携わった国際交流協力会の松田祥平さん（三巴）は一体を動かすことで、言葉の壁を感じることなく交流を深めることができたと思う」と語った。フィリピン出身のスアン・グエン・ニャットさん（三巴）は「国籍が違っていても、みんな優しく気持ちよくバドミントンができた」と笑顔だった。

（安里秀太郎）

11/12 (土) 北國新聞

11/12(土) 北國

◆中国の食文化、育児紹介
 白山市ファミリーサポートセンターの国際理解講座は同市福祉ふれあいセンターで開かれ、参加者9人が異文化に理解を深めた。同市国際交流協会職員で中国江蘇省出身の山村アイさんが講師を務め、中国の食文化や子育ての仕方などを紹介した。

10/21 (金) 北陸中日新聞

15 【かが白山総合】 2022年(令和4年)10月21日(金曜日) 北 陸 中

外国人家族の慣習理解を

増加の白山 育児支援の協力会員講座

白山市で増える外国人家族の子育てを支援しようと、市ファミリーサポートセンターは、乳児から小学生までの育児を手助けする協力会員五人を対象に、外国の食文化や育児環境についての講座を開いた。

同センターは、市内の子育ての手伝いを希望する市民に会員登録をしてもらい、保育園の送迎などをサポートする協力会員を

紹介する事業を行っている。市内に在住している外国人は九月末で約千六百人。今月、コロナ禍による海外渡航の制限が緩和されたことに伴い、外国人家族の増加が見込まれるため、異文化理解を促して活動を円満に進めようと実施した。

講座は十八日、市福祉ふれあいセンターであり、市国際交流協会の山村アイさん(中国出身)が講師を担当。中国の乳児期の食事や、主に祖父母など家族全体で育児に取り組んでいること、子どもの服装は厚着が基本であるといった慣習を協力会員に伝えた。

山村さんは「外国人向けの子育て支援制度の周知を進めつつ、協力会員がサポート活動の際、現場で戸惑わないよう文化の違いを理解してもらえよう取り組んでいく」と話した。

(安里秀太郎)



協力会員にむけて中国の慣習などを解説する山村アイさん(白山市倉光)

12/7 (水) 北陸中日新聞

15 【かが白山総合】 2022年(令和4年)12月7日(水曜日) 北 陸 中

外国人住みよい白山市へ

白山市在住の外国人が安心して暮らせるよう情報発信する市初の「外国人コミュニティリーダー」が誕生した。リーダーは八人で、ベトナム、フィリピン、中国、米国、ブラジルの出身。養成講座の最終回があり、出席した受講生五人に修了書が贈られた。

(安里秀太郎)



最終回の外国人コミュニティリーダー養成講座で話し合う受講生たち。白山市古城町で

ベトナムや比など8人 情報発信「リーダー」に

講座は全七回で、市国際交流協会が主催。日本の文化や行政サービス、地域情報に詳しくなってもらい、同じ出身国同士でつながるサークルや交流サイト(SNS)などで、母国語で情報を発信してもらうことが目的。

講座最終回は、同市古城町の松任文化会館ビノであった。受講生五人と、同協会などに所属する日本人のサポーター五人が「住みよい理想の白山」について話し合った。

「白山市を日本人も外国人も暮らしやすい町にするには」というテーマでは、日本に住んで十五年の山村ティさん(三三)中国出身は「市内に住む外国人はさまざまな事情から車を持たないことが多い。バスやタクシーの数を増やして、交通網を強化してほしい」と指摘。

グエン・トウイ・ズンさん(ベトナム出身)は「ごみの分別の仕方が、チラシを見ただけでは分からない人がある。市役所などが外国人向けに説明会があれば」と話した。

講座後、同協会の福田裕会長が受講生一人一人に修了書を手渡し、激励の言葉を贈った。

12/8 (木) 北國新聞

12/8 (木) 北國



米国のクリスマス国際交流員が紹介
白山・松陽小児童に
白山市加賀野公民館で7日、米国出身の市国際交

流員エヴァン・ローステッターさんと同市松陽小の1〜3年生10人が交流し、ローステッターさんは母国のクリスマスを紹介した。

公民館の放課後子ども総合プラン「キッズかがのクラブ」の一環で行われた。ローステッターさんは故郷のオハイオ州で子どもの頃に撮った写真を見せたり、クイズを出したりして児童と楽しんだ。

米国のクリスマスについて学ぶ児童
白山市加賀野公民館

12/26 (月) 北國新聞

12/26 (月)

◆白山で国際交流の集い
白山市国際交流協議会の「国際交流の集い2022」は同市松任公民館で開かれ、市内在住の外国人や住民らが異文化に理解を深めた。民族衣装を披露するファッションショーや餅つきが行われたほか、ココナツパンやキッシュなどの料理を楽しむブースも設けられた。

12/31 (土) 北國新聞

12/31 北國

国際交流員と
英語でトーク
白山でイベント
白山市国際交流協議会の特別イベント「国際交流員エヴァンさんと英語で話そう！」は、同市国際交流サロンで行われ、参加者15人が米オハイオ州出身のエヴァン・ローステッターさん(28)と同日と英語での交流を楽しんだ。
エヴァンさんと参加者は「アメリカと日本のクリスマスの違い」や「石川のおすすめのもの」など、自由なテーマで話した。エヴァンさんは毎週水曜日に同サロンで、初級と中級の2グループに分かれて交流会を開いている。

1/2 (木) 北國新聞

白山の国際交流員
英会話を指導
白山市国際交流員で米オハイオ州出身のエヴァン・ローステッターさんによる英会話講座は1日、白山市松任文化会館ヒールで始まり、市民らが日常生活や旅行の際に役立つフレーズを学んだ。

2/2(木) 中日新聞



オンラインで交流する山田憲昭市長(手前左) 〓 白山市役所で

学生交流など連携を

白山市と友好2都市会談

白山市と親善友好都市提携を結ぶ静岡県藤枝市、オーストラリア・ペンリス市の三市長らのオンライン会談が、白山市役所などであり、各市の現状や今後の交流の方向性を確認した。

コロナ禍でのオンライン会談は、二〇二〇年に次いで二度目。各市役所庁舎などから、山田憲昭白山市長、トリシア・ヒッチェンペンリス市長、北村正平藤枝市長らが出席した。

今夏、白山市の高校生をペンリス市に派遣する事業や、白山市で英語を学ぶ学生とペンリス市で日本語を学ぶ学生がオンラインで交流する事業などを予定し、相互の連携を話し合った。

トリシア市長は「皆さんと一緒にいろいろなことに取り組むのが楽しみです」とあいさつ。山田市長は「今後も友情と信頼を深めていきたい」と話した。(青山尚樹)

2/2(木) 北國新聞

豪と静岡・藤枝 連携強化を確認



オンラインで来訪を呼び掛けた山田白山市長(右) 〓 市役所

白山市オンライン会談
白山市とオーストラリア・ペンリス市、静岡県藤枝市のオンライン会談は1日行われ、親善友好協定を結ぶ3都市が連携強化を確認した。白山市の山田憲昭市長は地元の高校生を4年ぶりにペンリス市に派遣する準備をしているとし、市民間の国際交流を促進する考えを示した。
高校生の派遣はコロナで2020年から中止となっている。山田市長は「ホー

ムステイや学校体験を通じて相互の交流を深めたい」と述べた。山田市長は、白山市取川ジオパークが国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界ジオパークに認定される見通しになったことも紹介し「皆さんをお迎えし、市内を案内したい」とアピールした。
ペンリス市のトリシア・ヒッチェンと藤枝市の北村正平両市長のほか、福田裕白山市国際交流協会会長らが参加した。

2/23 (木) 中日



海外の小中学校の様子を紹介する動画に見入る生徒たち＝白山市釜清水町で

海外友好都市の文化に理解

鳥越中生届いた動画視聴

白山市鳥越中学校三年生が二十一日、同市の海外にある親善友好都市から届いた動画メッセージを、同校で視聴した。コロナ禍でも海外交流を進める取り組みで、生徒たちは海外の小中学校の動画を通じて、各国の学校の様子など異文化を学んだ。

市国際交流室の企画。昨

秋、鳥越中の生徒たちが同校や掃除している様子、人気のゲームなど日本の子どもたちの文化を紹介する動画を作り、米国のコロンビア市や中国江蘇省の溧陽市など五つの友好都市に同室を通じて送った。

生徒たちはコロンビア市などから届いた動画を視聴。コロンビア市の動画は、

小学生たちが公園やハイキングコース、ミズーリ州立大コロンビア校など同市の魅力を紹介した。溧陽市の動画では、中学生がサッカーや陸上競技などに取り組み姿などが映し出された。米国出身の市国際交流員エバン・ローステッターさんと、中国出身の市国際交流協会スタッフ山村アイさんが生徒からの米国や中国についての質問に応じた。

動画について、口田凌誠

さんは「他の国の文化や学校生活を知ることができて、うれしかった」と話し、紺谷恵さんは「どの学校もみんなが学校の魅力を最大限に教えてくれて、行ってみたいくなった」と興味津々だった。

(飯田克志)

2/10 (金) 北國



動画メッセージを視聴する4年生
＝白山市石川小

友好都市から動画 白山・石川小で視聴

昨年9月に白山市石川小の児童が市の海外親善友好都市の5都市に向けて送った動画メッセージの返事が届いた。4年生31人が9日、米・コロンビア、中国・溧陽の2市から届いた返事を視聴し、現地の学校生活に関心を高めた。

動画では、現地の児童が地元の自然などを紹介した。白山市国際交流協会職員が、中国の小学校では3千人以上が通っていると説明すると、児童は驚いた様子だった。

2/11(土) 北国

北国新聞 R5.2.21(火)

◆やんごっつ日本語が
 白山市の「やさしい日本語研
 修」は20日、市役所やオンライン
 で開かれ、市職員ら約40人が、
 外国人への窓口対応や行政サー
 ビス時に用いる簡単な日本語の
 言葉遣いを学んだ。災害発生時
 に市民へ配信するメールやホー
 ムページ等の情報を外国人でも
 理解できるように書き換えるワ
 クショップも行われた。



音楽に合わせて体を動かす
 親子―白山市松任文化会館
 ピーノ

外国人親子ら交流 松任文化会館ピーノ

白山市松任文化会館ピーノで
 10日、外国人と日本人の親子が
 音楽に合わせて体を動かす「リ
 トミック」で親睦を深めた。
 同市国際交流協会が呼び掛
 け、0〜2歳までの子を持つフ
 イリピンやベトナム、日本の親
 子8組が参加した。講師を務め
 た同市の澤井香奈さん(38)のピ
 アノ演奏や掛け声に合わせて、親
 子は手をたたいたり、体を揺ら
 したりした。紙コップで手作り
 したマラカスも振りながら楽し
 んだ。

2/14(水) 北国



そり遊びを楽しむ参加者
 〓白山市吉野谷セミナーハウ
 ス

雪遊びで外国人交流 白山市国際交流協

白山市国際交流協会の雪遊び
 バスツアーは12日、白山市吉野
 谷セミナーハウスで開かれ、市
 内在住の外国人らが、雪遊びや
 おにぎり作りを通じて交流を深
 めた。
 白山麓の自然の魅力を知って
 もらい、母国で広めてもらおう
 と初めて企画した。協会員や、
 ベトナム、フィリピン、インド
 ネシア、中国、米国の約30人が
 参加した。センター前の雪山で
 はそり滑りを楽しみ、子どもた
 ちの歓声が響いた。

北陸中日 3/19(日)

英語リズムに乗り楽しく

白山の児童ダンスなど体験

白山市国際交流協会は十八日、簡単な英語を使いながらダンスや創作を楽しむ「はくさんキッズ英語スクール」を、市松任総合運動公園体育館で開いた。

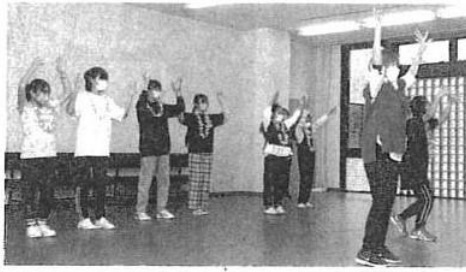
子どもたちに英語を楽しく学んでもらい、異文化への理解につなげてもらうようと開催。市内の小学四〜六年生二十三人が参加した。

三チームに分かれ、英語で自己紹介した後、輪ゴム鉄砲などをつくる「クワフット」、アメリカで人気のコンガ・ライン・ダンスを楽しむ「ダンス」、キックベースやドッジボールで汗を流す「スポーツ」の三クラスを順に体験した。

ダンスでは、外国語指導助手の嶋りささん(金子)が講師を担当。子どもたちは輪になってジャンプしたり、手足や腰を滑らかに使ってリズムに乗った。嶋さんが「フリースタイル!」と呼びかけると、思い思いに元氣よく踊った。

参加した梶すみれさん(八)は「英語は難しいと思っていたけど、先生が優しく教えてくれた。ダンスも楽しかった」と笑顔だった。

(安里秀太郎)



コンガ・ライン・ダンスを踊る参加者たち。白山市松任総合運動公園体育館で